
ヤルことやったらデキルものできるでしょ！！—通称『ヤルデキ！！』

るどういん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヤルことやつたらデキルものできるでしょ！——通称『ヤルデキ！』

【Nコード】

N52080

【作者名】

るどうういん

【あらすじ】

バツイチ子持ちの女性と婚約し、引っ越して同棲することになった。

新しい生活の始まりだと思った矢先に連れ子と同年ぐらいの少女と出会う。

しかもその少女は自分の卒業した工業専門学校の同級生二人の娘だと発覚！！

共働きの二人を助けるためひま……専業主婦をしている自分が昼の間

預かることに。

要は連れ子の娘と友達の娘とのんびり暮らす話。

10/07/18 (Sun) (前書き)

話しが飛んでるように思えるけど、時間軸気にせずにできた順に投稿。

友達をモデルにキャラ作ったりするからわかりにくいところがあるかも…

わからなかったら質問してください。

修正するなり質問に答えたりします。

友達と「あいつら中いいよねー、そのうち結婚すんじゃない?」「それじゃ子供は…」とメールで盛り上がったのが原作なもので…

10/07/18 (Sun)

「そんじゃ、愛香あいかのことよろしくな」

片倉かたくらがうちの玄関で、オレの腕に抱かれた自分の娘を見ながら心配そうに言う。

「おう、キツチリ世話してやるからサッサと仕事いけ」
「うん、そうなんだけどな・・・」

最近仕事が忙しくてこの子をオレに預けることが多くなったし、ましては今日は休日だ。
一緒にいけないことに後ろめたさがあるのだろう。

「安心しろ、手は出さん」
「あたりまえだ」

やだなあもう、「冗談に決まってるのに。
そんなに睨まなくても…」

「オイラは嫁さん一筋だ」

いつものようにニヤケながら、
いつものように自慢げに言ってみる。

「はあ、まあ、ありがとな」

あらら、呆れられちゃったかな？

「気にすんな。うちのガキの遊び相手になつてくれてるんだから。そんじゃ行つてらっしゃい、あ・い・ちゃん」

笑いながら高校時代から片倉君の嫌いな呼び方をしてみる。
いつこの呼び方をしてても反応は変わらないな、片倉藍は眉間にしわを寄せてる。

「小鳥遊^{たかなし}…おまえなあ、その呼び方やめろっていつてるだろ」
「ええーじゃあ、八月一日^{ほずみ}婦人^{ふじん}？」

腕で寝ている愛香ちゃんを起こさないように人差し指を頬に突き立てながら妥当であろう呼び方をする。

「フツーに呼べんのかおまえは」
「だってえー、三人とも八月一日^{ほずみ}じゃん」

目の前にいる八月一日^{ほずみ} 藍^{あい}は高校時代からの友人であり、こいつの旦那である八月一日^{ほずみ} 一之^{かずゆき}とも高校時代からの友人だ。名字で呼ぶと色々ややこしいのだ。
ぶっちゃけ『あいちゃん』という呼び方も、こいつの娘とかぶるのめつたにしないが。

「旧姓で呼べばいいだろ」
「おお、その手があつたか」

いかにもわざとらしく今気づいたようにして見せる。

「この会話なんどめだ？」

オレがここに住み始めて週一でしてるかな？

片倉は疲れたように目頭を押さえ始めた。

「う…うーん」

腕の中からかわいらしい声がする。

「あつ、愛香^{あいか}ちゃん起きちゃった」

目は二重で、肌は色白。

両親のいいところを取った八月一日夫妻の娘がうなされるように起きる。

「ゴメン、まだ寝てていいよ」

母親らしくよしとすと頭をなでる八月一日婦人^{ほが}もとい片倉。
家族のこんな朗らかな光景^{なご}は見ているだけで和やかな気分になる。
いつまでも見ていたいのだが、

「片倉く〜ん、時間はいいのかい？」

「えっ、やば、じゃあ愛香、いい子にしてなよ」

「ふあ〜い、いつてらっさい…」

「いつてらー」

愛香ちゃんと一緒に手を振りながら、若干小走りで駅に向かう片倉君を送り出した。

静かに扉を閉め、鍵をかける。

腕の中を覗いてみると、あいかちゃんが半眼を明けてボーとしていた。

相変わらず寝起きわるいな。

「あいちゃん、まだねる？」

「うっん、おなかへったー」

と言って目をこする。

かあいいなー、もう。

うちの娘ぐらいかあい。

「じゃあ、ご飯できたら呼ぶからテレビでも見てて」

「うん」

トトトとソファーに向かいちょこんと座って、いつの間にやら持つていたリモコンで電源をつける。

「OHHA」

朝からやたらテンションの高いモジャモジャがテレビに映る。

まだやってんのか。

朝からこのテンションはオレが疲れるので、チャンネルを変えてくれないかと頼むとNHKに変えてくれた。

今度は緑のモジャモジャが見えた。

世の中案外モジャモジャだらけなのかもしれない。

朝食の用意をしながらリビングを覗いてみると、愛香ちゃんはやっぱり舟を漕いでいる。

早く作らないと寝ちやうなこりや。

なんて思っているとドタドタと階段を下りる音が聞こえて勢いよくリビングの扉が開かれた。

「ちあきくんオッハヨー」

この朝から威勢の良い娘はオレの娘の藤川玲奈。^{ふじかわ れいな}
いきなり騒音が来て驚いたのか、アイちゃんがビクツと反応した。

「おはよう玲奈、階段はもつと静かにおりな、体に悪いぞ」

「はい、あつ、アイちゃんもおはよー」

「…おはよあ」

「ソファアでネテルとかぜひくよ？」

「うー、おきてたもん」

元気よく返事する玲奈に、眠そうな返事をする愛香ちゃん。
この子たちの会話はいつ聞いても和むな。
純粹だからだろうか？

「二人とも、ご飯できたから机片付けといて」

「はい」

「はい」

「もう、お母さんったらこんなに散らかしてる」

「ははは、そんなこと言うとまるで玲奈が裕子さんのお母さんだな」

玲奈はいくら言っても机を散らかす自分の母に腹を立てているよう
だ。

愛香ちゃんは今にも寝てしまいそう。

「ふふん、わたしはお母さんとあいかちゃんとついでにちあきくん
のお母さんなんだから」

エッヘンと胸を張る

えへへと笑う顔はさながら天使のようだが…

おっと、愛香ちゃん寝ちゃった。

「ええー、オイラついでお？」

寝てしまった愛香ちゃんの肩をゆする。

「いいもん、じゃあ冷蔵庫の中のゼリーオイラと愛香ちゃんて食べちゃうもん。玲奈は愛香ちゃんと、つ・い・で・に、オイラのお母さんだからいらないよね？」

「ゼリー？たべるー」

「えっ、ち、ちあきくんずるいよ」

ちよっといじけたように意地悪を言ってみる。

玲奈はアタフタし始めて片付けていた手も休めてしまう。

「だって…ねー？」

「?…ねー？」

あつ、この子寝てたからわかってない。

戸惑いながらも乗ってくるとは、流石あの二人の娘といったところだな。

「うう…ついでじゃない、ちあきくんもついでじゃないからー」

「やったね。それじゃあご飯食べてからゼリーね」

「…うん」

「ぜりー」

ちょっとやりすぎたかな？涙目だ。

大人げないかもしれないけど、こんなかわいい姿見せられたら……ね？
嫌われない程度にしますよ。

でもね、愛香ちゃん……そろそろちゃんと起きて欲しいかな？
足がしびれてきた。

10/07/18 (Sun) (後書き)

愛香ちゃん8才

玲奈8才

八月一日夫婦28才

オレ(ちあきくん)28才

裕子さん(玲奈の母)34才

高専を卒業するのが20才だから卒業してすぐ産んだことになり
ます。

オレと八月一日夫婦が同級生^{モデルあり}

元は未来の話だったけど無理やり現代に引っ張ってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5208o/>

ヤルことやったらデキルものできるでしょ！！—通称『ヤルデキ！！』

2010年10月26日04時55分発行